RIKKYO SECOND STAGE

Contents

P1　男女でつくる立教セカンドステージ大学
P2　本科開講科目(2009年度)・入学式の感想
P3　本科生の横顔　P4～6 ゼミナールの紹介
P7　話題の授業　P8 立教キャンパス散策・納涼パーティー

「立教セカンドステージ大学」は立教大学が提供する生涯学習の場です。シニア層の学び直しと再チャレンジをサポートします。

Vol.3
発　行：立教大学 「立教セカンドステージ大学」
編集責任：笠原清志　編集長：深瀬治則
発 行 日：2009年 9 月15日
〒171-8501　東京都豊島区西池袋 3 -34- 1

男女でつくる立教セカンドステージ大学

立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科
教授　庄司　洋子

立教セカンドステージ大学の受講生の構成は、外部からはどのように想像されているでしょうか。平均年齢は？　最高齢は？そして、次の関心事は性別、つまり男女比のようです。

この大学が、団塊世代を中心とするシニア層、とりわけその大量定年退職に着目して創設されたことは、すでに多くの人に知られていると思いますが、世に言う団塊の定年問題というのは、実はもっぱら男性の問題として語られています。実際、学内でこのセカンドステージ大学の構想が語られ始めたとき、私は「男の大学」がイメージされているな、と直感しました。え？　シニアのおじさん（失礼！）ばかりの大学、ちょっと気持ち悪いぞ、と。

団塊世代といえば、たしかに日本の高度成長を支えてきた男たちの物語と一体ですが、その背後には、それを支えてきた女たちの物語があることを忘れるわけにいきません。つまり、ひたすら会社人間をやってきた夫・父親たちと、その背後をしっかり守ってきた妻・母親たち、という典型的な性別分業関係こそが、団塊世代の象徴的な男女関係だったといえるのではないでしょうか。そうした性別分業をごく自然に受け入れてきた女性ばかりでなく、それに苦しんで耐えた女性やそれと戦い抜いた女性たちも含めて、セカンドステージ大学では、これら団塊女性を十分に視野に入れたものでなければならない、と私たちは構想を練り直しました。カリキュラムが男女の双方にとって魅力的なものであると同時に、入学のための諸条件についても配慮されなければいけないと思ったのです。

結果的には、セカンドステージ大学の受講生は、特段の操作をすることもなしに、実に見事に男女比のバランスがとれています。大学進学率の低かった時代の大卒女性や、男性に引けを取らない活躍をしてきた女性も多数入学しています。同時に、応募書類や入試の面接のなかで女性たちが語った「兄も弟も大学に行ったが、女は大学に行く必要はないと親に言われて涙を呑んだ」「これまで家庭を守ってきたのだからこんどこそは私の番」、という言葉も私たちはしっかり胸に受け止めて、本当の自分の時間を生きようとする女性たちを応援しています。そしていま、キャンパスのなかにシニア層男女が生き生きと学ぶ姿を見るにつけ新しい男女共同参画社会の芽吹きを感じるとともに、多世代・男女の共同参画大学というモデルを作り出す楽しみを味わっています。

（立教セカンドステージ大学・運営委員）

本科　開講科目（2009年度）

エイジング社会の教養科目群

- 現代世界論（前期必修）
- 超高齢社会論（後期必修）
- 自分のからだと言葉を取り戻す
- 聖書と私
- 歴史と文化の探求
- 20世紀と昭和の歴史
- 生涯現役という生き方
- 現代美術に親しむ
- 旅と文化
- 歌が照らす人と社会
- 現代生活と地球上の森林問題
- 生命の多様性
- 地球環境の変遷と未来
- 人類の来た道のりを測る

コミュニティデザインとビジネス科目群

- コミュニティデザイン入門
- ＮＰＯ／ＮＧＯ・ボランティア活動基礎編
- ＮＰＯ／ＮＧＯ・ボランティア活動応用編
- コミュニティ活動とネットワークデザイン
- 自分を地域に活かす
- セカンドステージとコミュニティビジネス
- ロハスビジネスの思想と実践
- アジアの貧困とＮＧＯ
- 環境保全とコミュニティ形成（夏季集中講義）
- 戦後経済の検証と国民生活
- 暮らしに役立つ経済と金融
- コミュニティデザイン・カフェ
- ビジネス再チャレンジ講座Ⅰ
- ビジネス再チャレンジ講座Ⅱ
- 世界経済を読む

セカンドステージ設計科目群

- 社会老年学入門
- セカンドステージとシチズンシップ
- セカンドステージと夫婦関係・親子関係
- セカンドステージの暮らしと社会保障
- セカンドステージの医療
- セカンドステージの住まいづくり
- セカンドステージと健康長寿（夏季集中講義）
- 介護と看取り
- 最後まで自分らしく
- 死生観を学ぶ
- 定年後の生き方
- 愛と癒しのコミュニオン（夏季集中講義）
- 現代史の中の自分史

ゼミナール・修了報告書（前期・後期必修）

全学共通カリキュラム
学部生と共通の科目の一部を前・後期各1科目履修可能

入学式の感想

桜の花が満開の晴れわたった校内。歓喜あふれる新入生オリエンテーションが開催された４月４日、立教セカンドステージ大学の入学式が静寂と緊張の中、チャペルで厳粛に始まりました。パイプオルガンの演奏は私に落ち着きと、これから１年間学ぶことに対しての新たな決意と勇気を与えてくれ、賛美歌はこれから一緒に学ぶ多くの受講生と出会えた歓びと連帯感を呼び起こしてくれました。

実践的な授業によって私自身の充実と成長を図るとともに、第２期生として、受講生・先生・スタッフの方々と一緒に、シニア世代の学びの場として社会的にも注目されているセカンドステージ大学の試みに、少しでも貢献したいとの思いを抱いた入学式でした。　**荒川　芳正**

44年前、"青雲の志"を抱いて、タッカーホールでの入学式に臨みました。そして、本年４月４日、"第二の青春"が始まりました。チャペルでの入学式は、厳粛な雰囲気の中、それぞれの社会人生活を通じ、『これから我々に出来ること、やらなければいけないことがまだまだあるぞ』『充実したセカンドステージにチャレンジするぞ』という気概に満ちた顔・顔・顔であふれんばかりでした。

セカンドステージ大学のコンセプトの１つである、"能動的受講生たれ"を実践できるよう、授業は勿論、「この輝く瞳の同級生との交流を深め、新たな自分を発見したい」という決意をさせてくれた素晴しいひと時でした。

加納　信彦

本科生の横顔

～セカンドステージのヒントを～

立教セカンドステージ大学本科生の実像、入学の動機、入学後の感想などの実態を知るため、入学者109名に対してアンケートを実施し、104名の方から回答を得ました。以下、その結果の概要です。

プロフィール

団塊の世代が主力メンバー

入学者全体の年齢層は、60～64歳が過半数の51％と最も多く、次いで65～69歳、55～59歳、50～54歳、70～74歳の順。男女比は男性47％、女性53％。

男女別では、男性が60～69歳に集中しており、定年をきっかけに入学された方が多いようです。対して、女性は60～64歳が多いものの各年齢層に分散しており、平均年齢は女性の方が若いようです。　（グラフ・１、２）

職業は会社員、主婦、役員、教師、公務員の順

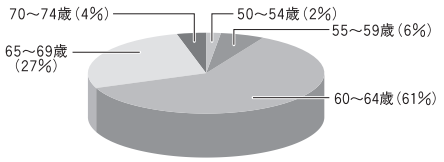
現在の職業または以前の職業は、男性は会社員または会社役員が大半ですが、女性は主婦・会社員・教師と広く分散しています。　（グラフ・３）

居住地域は首都圏がほとんど

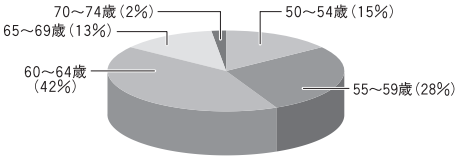
住んでいる地域は、首都圏が圧倒的多数ですが、静岡・群馬・栃木から遠距離通学の方もいます。

最遠方は、富山からの２名です。　（グラフ・４）

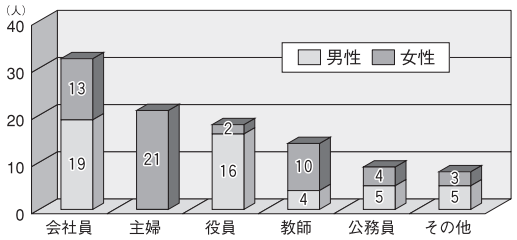
「グラフ・1　年齢層（男性）」



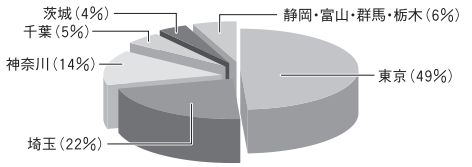
「グラフ・2　年齢層（女性）」



「グラフ・3　職業」



「グラフ・4　居住地」



入学の動機と感想

入学の動機―「充実したセカンドステージを」

「定年後」あるいは「子育てを終えてから」を自分の学び直しの時期と位置づけ「セカンドステージの生き方をデザインする上で有用な学びを求めて」とほとんどの人が回答しています。「地域貢献を模索」「ＮＰＯ・ＮＧＯへの関心」「老年学と介護について学びたい」「新たな出会いを求めて」などの動機でセカンドステージ大学を選択した人が複数いました。

学んだ感想―「知る喜び」「とにかく毎日が楽しい」

ほぼ全員が「楽しい」「よかった」と回答しています。

「知る喜びを全身で感じている」「心身共に活性化された」「様々な経験を積んだ人たちに啓発される」「考えていた以上に自主性や行動力が求められる」「ゼミナールでの体系的な学びが新鮮」「とにかく毎日が楽しい」「みなに感謝」という声が多く聞かれました。　（A）

受講生にインタビュー

社会との確かなネットワーク作り　深野　みどり

卒業生である私の所に送られてきたセカンドステージ大学のニュースレターに、この大学の目的が「ここでの学び直しが、社会的な実践ともなりえるような場を創っていくことにある」と書かれていたことにとても共感しました。「もう一度母校で学んでみよう、今だからできることがきっとあるはず」と胸躍らせて新緑の蔦のからまる時計台をくぐりました。

ゼミナールでの真剣な討議や熱のこもった先生方の講義、お仲間との楽しい交流、数々の講演会などどれもが貴重な時間を共有させていただいています。しっかり学んで社会との確かなネットワーク作りに参加できる様にと思っています。

私にとってはサードステージです　御守　陽治

私は仕事でタイのバンコック勤務となり、60歳定年後も居心地が良かったので計15年間現地暮らしをして今年３月に帰国しました。今69歳です。

立教セカンドステージ大学の存在は昨年から知っており、帰国したらそこで再教育を受けようと、私にとりましてはサードステージになりますが入学願書を出しました。

入学してみて60歳前後の男性女性の方々が教室で先生の話を聞く姿が真剣なのに驚きました。幾つになっても自分の生き方を追い求めることは素晴らしいことです。お互いに頑張りましょう。

ゼミナールの紹介

ゼミナールは他の大学等で行われている社会人向け生涯学習プログラムと一線を画す、立教セカンドステージ大学の特徴的な取り組みの一つです。本年度は新たに４人の先生が加わり、11のゼミナールが開講されています。

全ての受講生はいずれかのゼミナールに所属して、主体的な学習に取り組むとともに、本人が希望する研究テーマを設定し、担当の先生の指導を受けながら、１年間の研究成果を修了報告書（本科）、修了論文（専攻科）としてまとめ、提出することとなっています。（S）

ゼミナール担当の先生と専門分野　＊本年度新設ゼミ

笠原　清志	組織論
庄司　洋子	家族論、ジェンダー論、福祉政策論
北山　晴一	比較文明学、社会デザイン学
坪野谷雅之	金融論、実体経済、起業論
千石　英世	人文学各分野（特に文学、美術）
佐野　淳也	NPO／NGO論、コミュニティデザイン論
上田　恵介	動物生態学、動物行動学、環境保全学
佐々木研一＊	化学（環境化学、放射化学など）
加藤　　仁＊	定年後の生き方（ライフワーク）
鈴木　正男＊	環境人類学、文化遺産の科学
古賀　義弘＊	日本経済・企業の構造分析

笠原　ゼミ

◯ 豊富な海外経験を踏まえた教え

笠原先生

笠原先生はセカンドステージ大学設立に当初から参画されていた経緯を踏まえて、その趣旨について「カルチャーセンターのような単体の講座ではなく、より総合的な学びの場を目指しており、このゼミを今年１年間再チャレンジの場として活用して欲しい」旨を話されました。

授業では、先生が留学時代を過ごしたユーゴスラビアやポーランドの民族紛争の凄まじい戦いの歴史、また、現在も頻繁に訪問されているアジア途上国の現状、特にバングラデシュＢＲＡＣ総裁アベッド博士の貧困との戦いについて熱く語られました。

◯ 縦社会から横社会へ

ゼミのメンバーは本科生10名、専攻科生７名です。自己紹介は各々の今までの世界での貴重な話や自信のある経験談でした。特に本科生は昨日まで企業の一員として「縦社会」で働いていた状態から、過去のしがらみの無い「横社会」への環境変化に戸惑いつつも、学習に意欲を燃やしております。（O）

庄司　ゼミ

◯ 庄司ゼミといえば？！

庄司先生

ゼミ担当教員中紅一点の庄司先生のもと、本科生９名、専攻科生７名で構成されています。ふれあいを大切に、何でも言える、何でも聞ける家庭的な雰囲気の中、明るくまとまりのある楽しい仲間です。先生の大きな構えのおかげで、じっくり話し合える有意義なゼミです。

◯ 私たちに問われていること

「良いテーマを見つければ、そのレポートは半分出来上がったも同然。それには、自分なりの勉強をしていくことが大切」との指摘の後、全員がそれぞれの仮テーマに基づいたレジメの発表を終えました。ゼミ生の質疑応答後の先生の穏やかな物腰の中には鋭い指導が満載です。歴史、定義、概念、レジメの書き方、検索の仕方、調査の手法、仮説のたて方等々、矢継ぎ早にアドバイスが飛んできます。

私たちは先生からいただいた言葉を反芻し、今後の学びにどのように紡いでいくかが問われています。（T）

北山　ゼミ

◯ あなたは『世界の起源』を知っていますか？

北山先生

それはフランスのオルセー美術館にあるクールベの絵のタイトルです。私たちのうち何人かは、この絵のことを北山ゼミで知りました。今年のゼミ生は本科生10名、専攻科生４名です。ゼミ長は半世紀近く前の立教大学の軽音楽部長が務めています。

◯ 下町育ちのエスプリ

前期は先生の出席される日には、修了報告書と修了論文についてゼミ生からレジメの発表のあと、これの討論に時間を費やしました。ゼミ生だけのサブゼミの日には、数ある先生の著作から「衣服は肉体になにを与えたか」を読むことになりました。そして、サブゼミの初日に登場したのがその『世界の起源』というわけです。

先生は本科生の必修科目である「現代世界論」も担当され、フランス仕込みのインテリジェンスと歯切れのよい下町育ちのエスプリで、現代の世相を独特の切り口で解剖して見せます。（U）

坪野谷　ゼミ

◯ 最大規模のゼミ

坪野谷先生

坪野谷ゼミのメンバーは、本科生10名、専攻科生11名で、ゼミの中で最大の規模です。ゼミは本科と専攻科で別々に行いますが、合同でのゼミも月に１度の割合で行っています。

ゼミは基本的に隔週で先生が出席する場合としない場合の２パターンあり、先生の出席しない日は、受講生が自主的にゼミを運営しています。

◯ 先生は元金融マン

ゼミでは、金融マンであった先生の専門分野である金融論を中心に進められ、特に、サブプライム問題関連の国際金融が受講生の関心も高い話題となっています。また、先生のお人柄を反映して、適宜課外活動（ゼミ終了後の懇親会他）も行われています。

セカンドステージ大学は、本科では修了報告書を提出し合格すること、専攻科では修了論文を提出し、審査に合格することが修了要件です。テーマは、先生の指導を受け、受講生自らが決めるのですが、これがなかなか時間を必要とする作業となっています。　（A）

千石　ゼミ

◯ 境地にひたる

千石先生

千石先生はいつもゼミ生とも気軽に話をしてくださいますし、大学内でも終始ニコニコしておられますが、ひとたびゼミが始まると、ゼミ生の発表に対し、ご自身の知識、考え方を披露され、討論を主導されます。熱心さのあまり、話し始めたらなかなか止まりませんが、ゼミ生、ひとりひとりをとても丁寧に指導してくださいます。おかげで、私たちゼミ生は新しい知識をたくさん吸収できると同時に新たな課題もできて、勉強量がやや過重になってきています。各自、先生の熱心さに応えられるよう、後期からエンジンを全開させ、ゴールを目指す所存です。

ゼミ生は本科生10名、専攻科生８名の計18名です。

４月のスタート時に１年間「謙虚な姿勢」と「存分な学究心」を持ち続けることを目標にしました。ゼミ生はそれぞれ生きてきた社会も環境も違っており、修了報告書のテーマも美術・映画・文学・漫画・教育・華道・自然などまちまちですが、前期本ゼミ最終日に全員の発表が終わり、先生のアドバイスを受け、正式にテーマが確定しました。　（K）

佐野　ゼミ

◯ ＮＰＯ／地域づくりの現場を訪問

佐野先生

ゼミではＮＰＯ・社会的起業などの市民公益活動や環境・経済･社会のバランスの取れた「持続可能な社会づくり」について実践的に学びます。本科生10名、専攻科生２名が所属しています。ゼミ生の興味・関心に即して授業外の時間も利用して、様々なＮＰＯ／地域づくりの現場を訪問して実地学習をしています。７月には静岡県沼津市戸田地区で各自の課題のフィールドワークを実施し、８月には山梨県上野原市の農山村地区を舞台に地域活性化への支援や都市農村交流を行いました。

◯ 思い合う支え合う

エネルギッシュで、明晰な頭脳と軽快なフットワークの佐野先生は、足腰（脳も？）の弱ったゼミ生の意向を尊重してソフトな語り口で導いてくださいます。

自分の子供と同じような世代の先生に対して「老いては子に従え」的なゼミ生は一人もいません。ひとりひとりが自分を見つめ、思い合う気持ちと支え合う気持ちを共有しながら学んでいます。学びの情報や知恵と実践が詰まった佐野ゼミです。　（A）

上田　ゼミ

◯ 新しい世界

上田先生

上田ゼミは本科生10名、専攻科生８名の構成です。先生は動物生態学、特に鳥類が専門で当ゼミが“とりゼミ”と呼ばれる由縁です。「立教に鳥の先生がいらっしゃったとは！」

早速、先生からオーストラリアで研究中の「カッコウの托卵」について撮影映像を交えた講義があり、特別研究員を招き「スズメの減少」の講義もしていただきました。今まで知らなかった鳥の世界に一同感動、後期への期待もふくらみます。

◯ 合言葉は「多様性」

各自のテーマは鳥にこだわる必要はありません。メンバーの個性同様、ダンゴムシやたなごの自然派あり、万葉集や法衣の文芸派あり、大学院でも通用する本格派ありと、実に多種多様です。植物園や動物園でのフィールドワークはまるで大人の遠足。鶯の名を持つ居酒屋がとりゼミ御用達となりました。よく学び、よく遊びを実践している我ら、これからは各自のテーマを托卵させることなく、大切に自分の巣で温め、来年のヒナ誕生の喜びの瞬間をみんなで迎えたいと思っています。　（K）

佐々木　ゼミ

佐々木先生

◯ 生来の化学者

我が佐々木先生の風貌は誠実で真面目な研究者そのものです。戦争で焼け出された幼児期、お父上の仕事の関係で大学の実験室に居住されていたという、生まれながらの化学者です。塩ビ管からエコバッグの持ち手を作ったり・・と発明家でもあります。山を愛され、いつも穏やかな佐々木先生です。ゼミのメンバー構成は本科生のみの男性６名、女性４名です。

◯ キーワードは環境

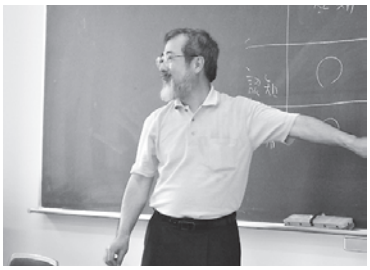
様々な角度からアプローチをしています。新型インフルエンザの世界的広がりが懸念された５月はその増殖の仕組み、その後、東京ビッグサイトで「環境展」開催時は先生と有志が参加し情報を共有しました。６月はクローン、日本でも石川県で誕生し話題になったクローン牛がどのようにしてできるか、また別の時にはレアメタルについてホットな情報を化学者の視点から解説していただきました。さらに７月には山中湖でゼミ合宿を実施し、各自のテーマ設定について、有益なアドバイスをいただきました。

先生の熱意に応えるべく、大いに学び、大いに楽しもうという意欲に溢れるゼミです。（Y）

～～*～

話題の授業

古谷野　亘先生
「社会老年学入門」



私がセカンドステージ大学に入学したいと思った理由のひとつは「社会老年学」の科目があったからです。

「社会老年学」は、ごく普通の大多数の人々がどのように歳をとり、どのような高齢期を迎えていくのかを社会的側面から捉えた学問です。授業内容は高齢者観から始まり、人口の高齢化、高齢期の健康・病気と生活機能、定年退職と引退、高齢期の収入と年金、高齢期の人間関係、サクセスフルエイジング（幸せな老い）、多様化するライフスタイルなど、高齢期を迎えていく私達に必須の内容ばかりです。長寿を得て、年金でまがりなりにも食べていけるようになった今、どう新しい高齢期のライフスタイルを作って行くかが、これから高齢期を迎える私達の課題であることも知りました。

古谷野先生の分かりやすいお話に心から感謝申し上げます。なお、先生は三代にわたる生粋の立教ボーイです。（A）

川越　博美先生
「介護と看取り」

私達には避けて通れない「介護」と「看取り」は心重い内容に思われましたが、川越先生の歯に衣着せぬ口調とユーモアを交えた講義は、私達の心を解きほぐしてくれました。授業では「死に逝く人と家族をケアし、それを支える地域をつくる方法の探求」をテーマに、医師と訪問看護師の立場から報告を受け、グループワークで考えます。

在宅緩和ケアとしてフォーマル、インフォーマルの医療・サービスについて学び、家で看取るということについて知識を膨らませました。

先生ご自身が生死をさまよわれた体験があり、在宅ホスピス緩和ケアグループを主宰されていて、医療に関する考え方、意見が明白で言葉に熱意と迫力がみなぎっています。在宅ホスピスには患者とその家族も含めてケアする地域ボランティアが必要であり、求められていることを痛感しています。（S）

袖井　孝子先生
「セカンドステージと夫婦関係･親子関係」

日本の家族の特徴と変遷を統計データや事例に基づいて明らかにし、日本の家族がどのように変化してきたのか、現代における中高年期の夫婦関係・親子関係にはどのような問題があるのかを考えます。個人差が大きいのが老年期の特徴ですが、その特徴を40数年にわたり社会学の視点から検証され、少子高齢化とライフサイクルの変化・性別分業の日本の夫婦・熟年離婚と年金分割・配偶者との死別等のテーマを取り上げて、自分の家族のこれまでとこれからを考えることを目的として、授業は進められました。

老いの時代を生き抜くチカラと知恵を貯え、その時々の状況に合わせて柔軟に対応し、人生を楽しみたいと考えている私には役立つ科目です。その機会を持てたことに感謝し、今後の人生や家族との生活に役立てたいと願っています。（S）

小谷　みどり先生
「最後まで自分らしく」

2008年の科目名が「現代の葬送と墓」で受講生は５名。2009年は「最後まで自分らしく」と科目名を変更して、受講生は25名に増えました。授業内容はほぼ一緒のようですので、ネーミングの効果は絶大です。

さて、授業は死とは何か、いかに死を迎えるか、葬送をどうするかという重いテーマが取り上げられています。これらはなんびとも避けられないテーマですので、授業の度に考えさせられます。日本で数少ない葬儀等に関する研究者のお一人である先生は、講義中に質問や意見が出ても、即座に対応してくれます。

また、授業は教室の中だけではなく、共同墓の見学、火葬場の見学が実施されます。もちろん施設見学の後は、お酒をたしなむ先生を囲んでの懇親会がにぎやかに行われます。（A）

立教キャンパス散策

【 図書館 】

自ら「知」のネットワークを構築する

● 図書館本館

大学正門をくぐり左手を見ると緑の芝生の向こう側に蔦に覆われたレンガ造りの図書館旧館（1918年竣工）がアカデミックな雰囲気の佇まいを見せています。その旧館の前を通り本館（モリス館）の脇をくぐると1960年に丹下健三氏設計により建築された新館が現れます。図書館本館は、この旧館、新館の２つの建物から構成されています。

旧館は「都選定歴史的建造物」に指定されており、寄附者の名前をとって「メイザーライブラリー」とも呼ばれ、２階の参考室は竣工当時の趣を残しています。

新館２階には総合窓口の閲覧カウンターがあり、図書のほか約300タイトルの一般雑誌と各種新聞が配架されています。

３階には200席以上の閲覧席のほか、パソコンも16台設置され、自由に利用できます。

● 貴重書：特別収集資料

代表的なものとして、江戸川乱歩旧蔵近世和本資料、聖公会関係資料があります。また貴重書・準貴重書のうち一部を館内にて展示していますので是非ご覧ください。

● メディアライブラリー

７号館２階のメディアライブラリーでは「皆川コレクション」「キリスト教音楽の歴史」「民族音楽の礎」などのＣＤ、ＤＶＤやデータベース資料を利用することができます。

池袋キャンパスには他に３つの図書館があり、新座キャンパス図書館も加えると蔵書の数は175万冊を超えます。セカンドステージの受講生の多くが熱心に利用しているようです。まだ利用されたことの無い方は一度是非覗いてみてください。

（Ｓ、Ｙ）

納涼パーティー

キャンパス内の花に季節の移ろいを感じる７月10日、本科生、専攻科生、教職員約140名の参加を得て納涼パーティーが開催されました。

前期授業を終えようとしている開放感からか皆の足取りも軽く、蔦の絡まる第一食堂へ吸い込まれていきました。

ヴァイオリニスト上野真理さんによるライブがあり、ツィゴイネルワイゼンは梅雨空を吹き飛ばすような爽やかな演奏で会場を盛り上げてくれるのに十分でした。

大橋学長の「楽しく、明るいパーティーに」との挨拶に続き一同乾杯！！時間に配慮した絶妙な進行により、参加者は前期を振り返り、まるで10年の知己にでも逢ったかのように大いに語り合いました。

特に、ゼミや委員会活動を契機に仲間作りができたようで、どこにも笑顔があり交流の輪は広がるばかりでした。

● 参加者のコメント

本科生Ａさん…「よくいらっしゃいました」パーティーでは学長から声をかけていただき大感激。受講生の輪の中に積極的に加わっていらっしゃる姿に、私は守られている幸せと建学の精神を感じ取りました。

本科生Ｂさん…普段会えない他のゼミ生と心ゆくまで話ができ嬉しく思いました。

専攻科生Ｃさん･･･第一食堂の趣きある雰囲気の中で聴くヴァイオリンの音色が最高でした。　（Ｕ、Ｆ）

編集後記

桜舞う４月、それぞれの思いを抱いて臨んだ入学式から早５ヶ月が経ちました。あの思いは少しずつ実現しているのでしょうか。

人生のセカンドステージをより豊かなものとするため自分、家族、仲間、地域を大切に、温かい人の和を作り上げられたらこの立教に集う意味が出てくるでしょう。そのための広報でありたいと願っています。　（Ｆ）

◆広報委員会スタッフ
【本科】浅賀はるみ　浅野正和　麻生恵美子　阿部ヨシ子
新井優雅　上田政義　宇田川正昭　大庭由紀子　岡田純子
片柳哲也　金子三郎　清岡　肇　熊田正弘　小林純代
斎田豊子　酒井　広　島田一郎　鈴木光枝　相馬志美
高橋庸子　永井慈子　橋詰正孝　原田信市　平澤眞由美
深瀬治則　淵上淳乎　峯川忠之　山﨑郁夫
【専攻科】岡崎曠敬　増田忠雄　若木京子